

## 子育ての不安を安心の笑顔に 「NPO法人 子育て支えあいネットワーク満」

NPO法人子育て支えあいネットワーク満(以下、「満」と略します)は、中原区・高津区に住むママたちが2000(平成12)年に立ち上げたグループです。社会から隔絶されたような不安、慣れない子育ての大変さを、人や情報とつながることで楽しさに変えたい、子育て中も社会とつながり誰かの役に立ちたい、との思いで活動を開始しました。

2013(平成25)年のNPO法人化を経て、川崎市地域子育て支援センター、ママのお助けコンシェルジュ、児童発達支援事業所「こども発達支援ルームマオポポ」、学童保育「マオポポkids」、オンライン子育て広場の運営、講座やイベントの企画・運営など、活動の場を広げてきました。



▲ 学童保育マオポポkids(2020年6月開室)

## “みんなの子ども”をみんなで育てる

親の自己実現とか社会とのつながりを求めて立ち上がった「満」ですが、活動と子育てを両立させていく過程で、「足りないところを補い合ってみんなで育てると親も子ども笑顔で過ごせる。一人で頑張らなくていいんだ」と実感し、「うちの子だけじゃない、みんなの子どもをみんなで育てていける、そんな関係性を広げていくこと」というビジョンを確立させていきます。そして遠くの誰か素晴らしい人呼び寄せるのではなく、同じ地域で子育てしてきた先輩ママが、かつての自分と同じく孤独な子育てに悩む保護者をサポートするといった風に、働く人も利用者もつながりの中で、地域の課題解決を模索しながら事業化してきました。

コロナ禍においては特に、いつでもちょっとした相談やおしゃべりができる場が必要、との思いで始めたオンライン

子育て支援センターねっこぼっこは、仕事を持つ人も外出を控えている人も、みんながつながれる場です。オンラインの活動ですが、スタッフに会いたいと思えばすぐに会いに行ける心強さがあります。



## “あったらいいな”の実現に向けて

「出産前後に子どもを預かってもらえるところはないか」「家族が入院したが子連れで病院へは行けない。どうしよう!」…。子育て支援センター利用者の声から始まった事業がママのお助けコンシェルジュ。コロナ禍で産後に家族のサポートを得られないママが増えているため、利用は以前の2~3倍に。ママの「助けて!」に臨機応変に対応するため、コーディネーターは使命感を持って日々奮闘しています。



▲ 子育て支援センター

必要性を感じて開始した事業は他にもあります。設立メンバーの河村麻莉子さんは、子育て真っ最中の利用者と接する中で、子どもの発達に関する悩みを受け止められる場の必要性を感じていました。「素人の『大丈夫よ』は信用ならない。親が納得できる知識を習得しなくては」と、川崎市内の地域療育センターで働きながら勉強してスキルアップを図りました。数々の障壁を越えて2020(令和2)年5月に開室したこども発達支援ルームマオポポは、遊びを広げることでコミュニケーション力を高め、自尊心を育む療育を目指しています。河村さんの話しぶりからは「育てにくいお子さんも、みんな、みんなと一緒に育てよう」という温かくて熱い思いが伝わってきました。

## “ありがとう”を次の人たちに

河村さんは、「私自身、多くの人たちに助けられながら子育てをしてきました。たくさん助けてもらった先輩母の『恩返しは私じゃなく、その先の人に返していけばいいんじゃないかな』という言葉が今も心に残っています。満で、かつて利用者だった方がスタッフになり支える側に回るという循環が生まれていることが嬉しい」と晴れやかな笑顔で話してくれました。顔の見える安心感を大切に、次の世代へとバトンを渡しなが、その時々の子育てママたちの“あったらいいな”に真剣に向き合い続けてきた「満」の皆さんの今後の活躍に期待が高まります。



▲ そとあそびこどもクラブのびる

## ■ 問合せ

NPO法人子育て支えあいネットワーク満  
メールアドレス:  
kosodate@man-kawasaki.org  
詳しい事業内容は  
ホームページをご覧ください ⇒

